



平和の使徒推進本部 社会司牧デスクからの

お知らせ 2020年11月

教皇来広からはや1年が経ちました。非常に短い訪問でしたが、宗教者や被爆者の方一人ひとりとあいさつを交わされ、メッセージを残してくださったフランシスコ教皇。核兵器廃絶への祈りが、核兵器禁止条約(詳細は推進本部だより「ガウデーテ」11月号をご覧ください)として、少しずつ現実に向かっていきます。

来広1周年記念行事は広島地区で行われます(11月24日 世界平和記念聖堂での記念ミサ)。また、「核なき世界基金を支援する会」と谷本平和財団の共催で、広島平和記念公園付近を中心に、午後6時より30分程度の集いを行う予定です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教区としての大きな行事はありませんが、それぞれの場でメッセージを思い起こし、祈りをささげていただければ幸いです。

教皇フランシスコ「平和のための集い」(2019.11.24)でのメッセージより…

確信をもって、あらためて申し上げます。戦争のために原子力を使用することは、現代においては、これまで以上に犯罪とされます。人類とその尊厳に反するだけでなく、わたしたちの共通の家の未来におけるあらゆる可能性に反する犯罪です。原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の保有は、それ自体が倫理に反しています。それは、わたしがすでに二年前に述べたとおりです。これについて、わたしたちは裁きを受けることとなります。次の世代の人々が、わたしたちの失態を裁く裁判官として立ち上がるでしょう。平和について話すだけで、国と国の間で何の行動も起こさなかったと。戦争のための最新鋭ですさまじい兵器を製造しながら、平和について話すことなどどうしてできるでしょうか。差別と憎悪のスピーチで、あのだれもが知る偽りの行為を正当化しておきながら、どうして平和について話せるでしょうか。



★正義と平和広島協議会より～映画「修道女、神父、そして爆弾」

先日、日本基督教団の広島牛田教会において映画上映会がありました。カトリックからも 15 名が参加しました。映画の内容は、アメリカで非暴力の反核運動に命をさげているシスター、神父らのドキュメンタリーです。彼らの活動の動機の中には、広島、長崎の被爆の現状について知ったことがあります。世界中で核なき世界のために働く平和の使徒とともに、私たちも何らかの意思を表していくことができればと願っています。

♡この映画に関心のある方、上映会に興味のある方はご連絡ください。

★災害サポートセンターより～引き続きお祈りを！

平成 30 年 7 月豪雨災害の被災者の現況について、倉敷教会の岡野さんよりご報告いただきましたので、お知らせいたします。

岡山県は、被災後2年2か月の2020年8月末時点で、仮設住宅に暮らす被災者のうち709世帯を次の理由で2年間入居期限の1年延長をしました。

被災後仮設住宅に入居した世帯は、ピーク時で 3,415 世帯。

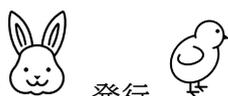
延長理由

- ・期限内に自宅を再建できない 414世帯
- ・希望する公営住宅が建設、修繕中 184世帯
- ・希望する条件の民間賃貸住宅が見つからない 111世帯

※新型コロナウイルスの影響で資材が調達できず、工事が遅れたケースがあります。

なお、2020年11月時点でも、あまり減少しておらず、延長したほとんどの世帯が仮設住宅に住んでいる状況です。

真備町には、被災前の事業者の多くが戻ってきています。団地の状況は、まだ空き地が目立つところがあります。倉敷市が建設する災害復興住宅は、現在、建設中で、入居予定者は、完成を待っている状態です。今は、真備町内の全7地区で地域コミュニティの再生のため、様々な活動を続けています。



発行

平和の使徒推進本部 社会司牧デスク

電話:082-221-6613 (月火木金 9時~17時) FAX:082-221-6019

Email: pcaph@hiroshima.catholic.jp

ホームページ <https://www.social-desk.net/>